

近代学校制度の原理

—学校を持つ社会（近代産業社会）の特徴—

牧野 篤

(東京大学大学院教育学研究科)

(ディレクトフォース学術顧問)

1. 根源的危機の時代へ

「平成」はどこに行った？

平成時代：1989年～2019年

バブル全盛期⇨バブル崩壊

日経平均株価3万5000円⇨7608円⇨2万9000円

1ドル=79.75円（戦後最高値）

GDP世界第3位に後退

銀行合併

郵政民営化

国の借金1000兆円超

ゼロ金利・マイナス金利

「激動」なのに
「空白」

危機(crisis)の時代
といわれて30年
「変化なし」の感覚

昭和時代
1926年～1989年

東西冷戦終結

阪神淡路大震災

東日本大震災

地下鉄サリン事件

リストラ 自殺者3万人超

就職氷河期

少子高齢化・人口減少

Windows

iPhone iMac iPad

令和時代
2019年～

あと2年で昭和100年

バブル崩壊までが昭和
コロナ禍後から令和
平成30年間「変化なし」
この30年間、昭和が蓋をしてきた

危機：crisis = 岐路

危機の時代には、未知の大海に向けて「希望」を描く「勇気」が必要

希望へのビジョンが「危機の時代」の痛みを耐えさせる

だが．．．．．

いまや、**根源的危機の時代**へと立ち至ってしまったのでは？

天文学的には、50億年後には地球は消滅し、

また数か月後に天体衝突で人類が絶滅する可能性はある。

しかし、今世紀末（100年後）には人類は、過去に経験したことがないほどの過酷な環境で生きることが余儀なくされる。どれくらい過酷な状況になるかは、現在の我々がとる態度次第である（天文学者・岡村定矩東大名誉教授）

（神野直彦氏提供資料[人生100年社会デザイン財団フォーラム20230510]参照）

「危機の時代」を襲うパンデミック + 気候変動

内在的危機：人間の社会がつくる危機＝経済恐慌・戦争など

外在的危機：人間の社会がつくったのではない危機＝自然災害・病疫など

「危機の時代」：内在的危機が噴出する構造的転換期

しかし、深刻な危機の時代には内在的危機に外在的危機が重なる

農業社会から工業社会への転換期：黒死病(ペスト)のパンデミック

＝1347年～53年にヨーロッパ人口の3分1が死亡

軽工業社会から重化学工業社会への転換期：スペイン風邪のパンデミック

＝第一次世界大戦後1918年から翌年にかけて
2500万人が死亡

第一次世界大戦・第二次世界大戦の合計死者より多い

工業社会からポスト工業社会への転換期：新型コロナウイルス感染症のパンデミック

ここへさらに、気候変動

(神野直彦氏提供資料[人生100年社会デザイン財団フォーラム20230510]参照)

2. VUCAの（予測困難な）時代

VUCAの時代

V: Volatility (変動性)

U: Uncertainty (不確実性)

C: Complexity (複雑性)

A: Ambiguity (曖昧性)

⇨もともとは安全保障上の概念：

東西冷戦が終結して民族紛争など局地紛争が頻発。

核戦略だけで安全保障が語れなくなり、めまぐるしく
変転する予測困難な情勢を表現

⇨転じて、経済用語に

市場社会：生産要素市場（土地・労働・資本）＋生産市場（財・サービス）

⇨「生産の場」（企業）と「生活（消費）の場」（家計）が分離
間を「市場」が埋める

=生活者（労働者）の観点からは、働きに行って、賃金をもらい、
財・サービスを購入して生活する

⇨**所有欲求ベースの社会**

VUCAの時代：このサイクルが乱れる

生産要素市場に「**情報**」と「**アントレプレナーシップ**」が入る？

市場社会がもたらす環境破壊が深刻化⇨生産要素市場が混乱（維持困難に？）

組み換えないと・・・⇨価値観の転換ができない？

存在欲求の時代へ

いまだに所有欲求の時代の価値観で問題を立てていないか？

3. 均質と平等：学校制度の原理

学校は、所有欲求によって
経済の拡大再生産を促進するための
労働力と消費者の育成＝市場社会の拡大のための
人材（国民）育成のためのシステム

「量」の経済の時代の「労働力」「購買力」育成システム



一寸子花里 文学ばんだいの宝

<https://ja.wikipedia.org/wiki/寺子屋>



現在の小学校の教室

<http://www.ritsumei.ac.jp/primary/life/day/>

パノプティコン

標準化による一括管理の手法
規律訓練型権力
規律(外部・他者の目)の内面化

⇒アーキテクチャ(architecture)(環境管理型権力)へ

4. 均質と平等：消費空間の原理

「ぜいたくの民主化」

機能の低廉化
機能の普及・普遍化

大量生産・大量消費モデル

商品の画一化⇒価値観の画一化

市場空間の均質化

展覧(博覧)と定価とバーゲンセール

廉価 + **誰でも**力ネさえあれば何でも買える



スーパーマーケット(1941年頃、スウェーデン)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/スーパーマーケット>



コンビニエンスストア店内

<https://amanaimages.com/info/infoRF.aspx?SearchKey=11014024040>

5. 産業的身体の形成

小學校用
改正兵式體操

發兌所 岡安書房藏版

岐阜縣視學官從六位勳六等 峰是三郎君題字
岐阜縣師範學校教諭正八位 今井武六君校閱
岐阜縣師範學校教諭 横倉喜太郎君校閱
宮脇半助編纂



注意 一步ノ長サハ大人ハ約二尺五寸(七十五センチメートル)ナレ
トモ高等小學校一年生位ニテハ一尺八寸位ヲ適度トシ同四年生位
ニテハ二尺二寸位ヲ適度トス故ニ本文ニハ其中ヲ取りテ約二尺ト
セリ

二分間大人ハ百十四歩トスレモ高等小學校ニテハ百二十歩(四年)

乃至百五十歩(一年)ヲ適度トス

歩長速度トモ右二件ヲ參酌シテ各學年ニ適用スヘシ

豫令ニテ體重ヲ右足ニ托シ左足ヲ直チニ踏ミ出スコトノ出來ル様

ニ用意スベシ併シナガラ之レガ爲メ体ヲ右偏スベカラズ

歩調行進ニ關シテ注意スベキ條件ハ大畧左ニ摘記スル如シ

一、着眼點

二、足ヲ輕ロク屈ラ屈メテ上ダ(其高サハ必要ノ度ニ應ズ)

三、足ヲ上ケタル時足尖ヲ垂ル

四、踏ミ付ケタルトキ腰ヲ伸バス

五、足尖ヨリ平ラニ踏ミ付ク

六、兩臂ヲ活潑ニ振動ス



フォードのアッセンブリーライン(1913年頃)

<https://ameblo.jp/koshioheikuroh/entry-12444174648.html>



中国のアッセンブリーライン(2000年代)

<https://www.afpbb.com/articles/-/3262592>

6. 比較代替可能性：時間と空間の均質化

空間・時間の均質化

人間の均質化

社会の均質化

⇒ 「均質」だから「平等」が社会の原理となる

量

量差

代替可能性

7. 自由と平等：均質性の罠

個人の学校化
家庭の学校化
地域の学校化
会社の学校化
社会の学校化
国家の学校化

+

家(家庭)の集合態としての地域
会社の集合態としての社会

個人
↓
家庭
↓
地域
↓
会社
↓
社会
↓
国家

媒体としての学校
選抜機構

「均質」だから「平等」

「均質」だから「自由」

7. 資本増殖のアナロジーとしての人間

時間と空間
生産と消費

人間観
価値観
社会観

「均質」と「平等」



貨幣による交換市場を普遍化する



人間一般（標準型）の成立

「自由」



「異常」の排除へ

「均質」「平等」「自由」が差別をつくる